

令和3年度 実績

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

兵庫県立こども発達支援センター

令和3年度 実績

1 診療実績

(1) 事前協議

受診希望者について市町窓口事前協議を実施し利用申込書を受け取る。(詳細は「利用の手引き」参照)

<月別事前協議件数>

	3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	計
件数	10	21	42	32	35	40	23	28	25	12	16	27	311

※受診の有無に関わらず全件を掲載

<事前協議から初診までの日数>

日数	件数
～30日まで	46
31～60日	119
61～90日	98
91～150日	20
151～200日	3
200日以上	4
その他	56
計	346

(2) 医療機関からの紹介

令和2年度より医療機関からの患者の紹介を開始した。

	3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	計
件数	3	4	3	3	4	2	4	6	9	4	4	6	52

(3) 利用患者数

	3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	計
初診数	31	25	26	28	35	26	32	30	28	29	25	31	346
再診数	267	235	297	335	371	297	351	321	332	305	278	355	3,744
利用延数	298	260	323	363	406	323	383	351	360	334	303	386	4,090

(4) 初診患者内訳

初診患者に関する属性は下記の通りである。

<初診時年齢>

年齢	患者数
0歳	2
1歳	3
2歳	16
3歳	43
4歳	55
5歳	54
6歳	33
7歳	35
8歳	28
9歳	24
10歳	22
11歳	9
12歳	7
13歳	9
14歳	4
15歳以上	2
計	346

※0歳児2名、1歳児2名はダウン症児である。

<紹介市町>

神戸市	10
姫路市	1
明石市	195
洲本市	1
加古川市	17
赤穂市	16
西脇市	1
三木市	19
高砂市	3
小野市	7
三田市	2
淡路市	2
たつの市	1
稲美町	19
播磨町	37
市川町	1
福崎町	10
神河町	2
上郡町	2
計	346

<性別>

性別	患者数
男性	248
女性	98
計	346

<受診の目的>

受診の目的	患者数
診断を受けたい	188
療育を受けたい	28
診断と療育を受けたい	92
気になる症状がある	4
セカンドオピニオン	4
その他	30
計	346

<診断>

発達障害に関連する主たる診断名
(ICD-10による分類)

疾患名	患者数	
PDD	50	14.5%
PDD+ADHD	20	5.8%
PDD+ADHD+その他	5	1.4%
PDD+LD	8	2.3%
PDD+MR	26	7.5%
PDD+その他	18	5.2%
ADHD	21	6.1%
ADHD+LD	5	1.4%
ADHD+MR	3	0.9%
ADHD+その他	2	0.6%
LD	11	3.2%
LD+その他	3	0.9%
MR	52	15.0%
MR+その他	5	1.4%
その他	114	32.9%
評価中・未診断	3	0.9%
計	346	100.0%

「その他」の内訳 (重複あり)

	患者数
適応障害	1
機能性腹痛症	1
境界知能	36
構音障害	1
言語発達遅滞	11
てんかん	3
低出生体重児	41
極低出生体重児	6
超低出生体重児	3
ダウン症候群	5
協調運動障害	4
起立性調節障害	2
チック障害	1
不登校	14
登校渋り	3
発達遅滞	3
全般的発達遅滞	12
社会コミュニケーション症	5
不注意	3
多動	2
いじめ	1
発達凸凹	11
診断保留	19

※PDD：広汎性発達障害 (F84)

ADHD：注意欠陥多動性障害 (F90)

LD：学習能力の特異的発達障害 (F81)

MR：知的障害 (F70-74)

診断名が複数ある患者 99名 28.6%

知的障害の有無 (境界知能含む)

	患者数	
あり	122	35.6%
なし	224	64.7%
計	346	100.0%

(5) 保育実績

初めてセンターを訪れたこどもにまず保育士・支援員が出迎え、診察に同席し、こどもと個別で遊びながらこどもの特性を確認するために行動観察を行う。また、個別療育や集団コミュニケーション療法（別掲）では、各療法士と協働または保育単独で、こどもに合わせた遊びを工夫し発達を促す。

<診療>

	3年									4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診陪席	11	13	22	24	31	21	26	22	19	18	13	18	238
再診陪席	55	69	49	58	62	40	49	55	52	52	20	51	612
計	66	82	71	82	93	61	75	77	71	70	33	69	850

<療育>

	3年									4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業+保育	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
言語+保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育のみ	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
計	2	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	8

<ダウン症児の赤ちゃん体操教室>

ダウン症児への早期介入を目的に日本ダウン症療育研究会認定赤ちゃん体操指導員による親子体操を実施した。低緊張のダウン症児の運動発達を促すとともに発達の特徴を理解することでこどもへの理解や愛着を深めることが目的である。

	3年									4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4
参加者	6	6	3	4	3	5	5	5	5	6	5	6	59

(6) 心理実績

臨床心理士が心理検査を行い、こどもの発達の段階を客観的に確認し、支援の参考にする。面談では、具体的な対処法についてや、こどもの特性に対する理解を深めるために、本人や保護者と話し合う。また、必要に応じて、地域の園や学校と連携し、情報を共有してこどもへのバックアップを行う。

<心理検査数>

	3年									4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
心理検査数	24	38	33	35	43	33	44	38	36	34	32	38	428

初診患者が発達検査を他機関で過去1年以内に実施済みである場合は、他機関で実施した検査を参考に当センター初診・再診時に陪席して行動観察を行い、評価を実施する。

<心理検査内訳>

		3年									4年			計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
発達	対面式	K式	8	18	21	12	16	14	14	14	12	17	10	17	173
		WISC	15	13	11	22	24	17	27	23	20	16	18	18	224
		その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	質問紙	津守	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
		その他	0	5	0	0	2	2	3	1	1	1	2	2	19
人格		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
その他		0	2	0	1	1	0	0	0	2	0	1	1	8	
計		24	38	33	35	43	33	44	38	36	34	32	38	428	

<うち再検査(再掲)>

	3年									4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
K式	3	2	10	7	15	8	3	0	2	0	1	4	55
WISC	3	2	2	11	10	3	14	12	7	5	9	7	85
その他	0	1	0	1	2	0	3	0	1	0	0	0	8
再検査計	6	5	12	19	27	11	20	12	10	5	10	11	148
心理検査計	24	38	33	35	43	33	44	38	36	34	32	38	428

診療開始から1年が経過した平成25年度から、再検査を必要とする患者には半年～1年程度の期間を開けて再度、心理検査を実施した。

<心理検査以外>

		3年										4年			延人数	実人数
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
診察陪席		47	28	32	48	31	27	24	18	24	41	37	67	424	275	
こども支援	カウンセリング	5	4	3	3	3	3	2	4	2	3	2	4	38	8	
	他	0	1	0	0	0	1	0	0	3	1	0	1	7	7	
保護者支援	面接	1	2	3	0	1	0	2	0	2	2	4	0	17	7	
	電話	44	32	82	71	37	47	61	42	37	34	59	59	605	353	
地域連携	電話	7	4	9	12	6	3	7	16	10	7	12	11	104	61	
	会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(7) 療育実績 (言語聴覚療法・作業療法)

言語聴覚士 (以下 ST)、作業療法士 (以下 OT) は、年齢や障害の程度、ニーズなどに対応した個別のリハビリテーションプログラムに基づいて、療育を提供している。治療時間と頻度は、対象者の障害状況や年齢、家庭の状況などを配慮して設定される。こどもの持つ機能や能力を伸ばすための直接的な関わりに加え、保護者に対しては、こどもの特性の理解を深めたり日常生活での具体的な対応を助言している。

① 言語聴覚療法

療育評価では、国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、PVT-R 絵画語彙発達検査、新版構音検査、学齢版言語・コミュニケーション発達スケール (LCSA) 等の検査を実施し、こどもの言語能力とコミュニケーション能力の評価を行っている。読み書きの苦手な児童には、標準読み書きスクリーニング検査や URAWSS II (小中学生の読み書きの理解) 等を実施することもある。検査が難しい乳幼児や検査の対象年齢を超えている児童には、遊びや会話を通して行動観察を行い、コミュニケーション能力を評価している。

個別療育では、個々の課題に合わせたプログラムにより療育を実施している。主に、絵カードを用いた言語理解と表出を促す課題や、他者との関係を保ちながらコミュニケーションを育むプレイセラピーを行っている。センターでの療育場面だけでなく、家庭や園でも取り組める課題やかかわりの助言も積極的に行っている。

	3年										4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
療育評価件数	7	14	22	24	22	10	12	13	13	17	13	15	182	
療育件数	50	36	53	57	58	52	62	57	62	57	45	58	647	
合計	57	50	75	81	80	62	74	70	75	74	58	73	829	

② 集団コミュニケーション療法

就学を控えた5歳児を対象に、こどもの困りごとによりクラスを編成し、STと支援員が担当して活動を行っている。集団コミュニケーション療法はそれぞれ1単位20分、1回の活動につき3単位で実施している。

目的：小集団の中で同年代のこどもと一緒に活動することで、園や学校など集団場面で抱える問題点について評価する。また、活動を通して、他者に伝えることや尋ねること、他者と協力することなどを経験し、社会性の向上を図る。

期間・回数：こども1人ひとり個別に設定 概ね6回程度

頻度・実施時間：月1回、1時間程度

構成人数：3～5名

内容：自己紹介、自由会話、着席活動、ルールのあるゲーム、共同制作

担当職種：言語聴覚士、支援員

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

③ 作業療法

療育評価では、日本感覚インベントリー（JSI-R）、日本版感覚プロファイル（SP）、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、フロスティック視知覚発達検査、感覚処理・行為機能検査（JPAN）、機能的自立度評価表（WeeFIM）などを用いて、こどもの運動、感覚、生活動作を評価する。

運動は、歩く・座るなどの姿勢と運動、手の使い方、スキップや縄跳びなどの協調運動、運動企画、ボディーイメージについて、感覚は、感覚の処理能力と知覚・認知能力について、生活スキルは、食事・着替えや排せつなどの生活動作を確認しながら、問題がある場合はその原因を明確にし、対応を検討する。

療育では、評価をもとに目標とプログラムを立案し、こどもへのセラピーだけでなく、生活環境や活動への介入を行う。

	3年										4年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
療育評価件数	5	11	21	24	15	8	9	12	12	14	12	12	140	
療育件数	56	55	66	77	85	70	82	78	81	73	70	72	865	
合計	61	66	87	101	100	78	91	90	93	87	82	84	1020	

2 事業実績

(1) 出張発達健康相談

センターへの来所が困難で、医師による発達障害の診断・療育をうける機会が少ない地域に、センターの職員が出向き、児童の発達にかかる健康相談を実施する。

- ①対象者：乳幼児から概ね 15 歳までの児童で、発達障害の疑いがある者、又は発達障害と診断された者で、発達、情緒・行動面等の問題において課題を抱えている者
- ②対象地域：県内全域
- ③事業内容：相談及びカウンセリングの実施
- ④派遣職種：医師、臨床心理士（以下 心理士）、保健師、支援員等
- ⑤実施方法：市町からの要望を集約し、市町と協議のうえ年間出張計画を策定し、実施
(費用は無料)

実施日	市町名	相談者数	派遣職種
3年6月16日	加東市	3名	医師、心理士、作業療法士
7月7日	洲本市	2名	医師、心理士、支援員
9月29日	たつの市	4名	医師、心理士、保健師、支援員
10月15日	加西市	1名	医師、心理士
11月9日	朝来市	1名	医師、心理士
11月17日	加東市	3名	医師、心理士、作業療法士
12月17日	佐用町	2名	医師、心理士、支援員
4年3月4日	たつの市	4名	医師、心理士、保健師
6市町(8回)		20名	

(2) 派遣発達支援（療育体制づくりの支援）

市町の要請に基づき、市町の療育体制を新しく整備する場合や現在の体制をより充実させる場合に、その計画や内容に対する助言等を行うため、センター職員を各市町に派遣し、療育体制づくりを支援する。

- ①対象地域：県内全域
- ②事業内容：市町の療育体制づくりへの支援、核となる支援機関への支援、派遣支援後の定期的なフォローアップ
- ③派遣職種：心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等
- ④実施方法：派遣を希望する市町から協議を受け、契約を締結のうえ派遣

実施日	市町名	派遣職種
3年6月18日	加西市	言語聴覚士
8月16日	三木市	作業療法士
8月20日	宍粟市	心理士
8月23日	小野市	作業療法士
9月7日	三木市	作業療法士、心理士
9月30日	小野市	作業療法士
10月22日	養父市	作業療法士
10月28日	丹波市	作業療法士
11月1日	三木市	作業療法士
11月4日	三木市	心理士
11月12日	小野市	作業療法士
11月30日	三木市	心理士
12月9日	三木市	作業療法士、心理士

(3) 研修・情報提供等

こどもが成長発達する過程に携わる保健師や保育士、支援過程で関わる専門職の心理士、言語聴覚士等、支援者のスキルアップのため、センターの職員や外部専門家の特色を活かした研修を企画実施した。

- ①内 容：講義、実地研修
- ②対象者：保健師、保育士、支援員、心理士、言語聴覚士、作業療法士等
- ③講 師：こども発達支援センター職員
- ④経 費：受講者負担（こども発達支援センターの研修受講料等徴収要領による）

<基礎研修>

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
3年 5月 27日	[講義] 発達障害の基礎知識	医師、心理士、支援員	18名	センター
6月 3日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	心理士、作業療法士	2名	
6月 17日		心理士、言語聴覚士	2名	
6月 22日		心理士、作業療法士	3名	
7月 1日		支援員、言語聴覚士	3名	
7月 6日		心理士、作業療法士	1名	
7月 15日		支援員、言語聴覚士	3名	
10月 7日	[講義] 発達障害の基礎知識	医師、心理士、支援員	16名	
10月 12日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	心理士、作業療法士	2名	
10月 21日		心理士、言語聴覚士	3名	
11月 4日		支援員、作業療法士	3名	
11月 18日		心理士、言語聴覚士	3名	
12月 7日		支援員、作業療法士	3名	

<スキルアップ研修>

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
3年 7月 19日	「検査や評価から見えるこどもの姿 ～結果を支援に活かすために～」 講師：センター言語聴覚士、心理士	18名	センター
8月 6日	「読み書きに苦手さのあるこどもへの支援」 講師：センター作業療法士、言語聴覚士	18名	
9月 16日	「こどもの遊びと関わりを考える」 講師：センター作業療法士、支援員	14名	
11月 29日	「保護者との面接を考える」 講師：兵庫県立清水が丘学園 心理治療士 参事 塩見 守氏	18名	

※令和3年度の研修は新型コロナウイルス感染症の影響で定員を限定して実施した。

<広報活動等>

情報提供としてインターネットホームページ (<http://hwc.or.jp/kodomohattatsu/>) の更新等により、発達障害について情報を発信するとともに、相談窓口の紹介を行う。

(4) 市町連携強化事業

新型コロナウイルス感染症の影響で、市町及び関係機関との連絡会は実施しなかった。

(5) 家族交流支援事業

ひょうご発達障害者支援センタークローバーや兵庫県自閉症協会との共催のもと、ペアレントメンターによる講演会を実施した。

ペアレントメンター：発達障害のある子どもの子育てを経験し、かつ相談支援に関する講座を受けた保護者

実施日	テーマ・内容	参加者	共催機関	場所
12月13日	ペアレントメンター講演会	7名	ひょうご発達障害者支援センター 兵庫県自閉症協会	センター

(6) 教育連携

高砂市特別支援教育専門家チーム委員会

(7) 市町助言

市町	テーマ・内容
神戸市	療育ネットワーク会議にかかる指導・助言

<参考資料>

開設以降の市町・圏域別センター利用状況

※出張発達、派遣発達の◎は複数回利用市町

圏域	市町	初診患者 ※ () 内は R3 年度分	研修	出張発達	派遣発達
神戸	神戸市	117 (10)	○		
東播磨	明石市	1,199 (195)	○	○	
	加古川市	263 (17)	○		
	高砂市	140 (3)	○		
	稲美町	154 (19)	○		
	播磨町	187 (37)	○		
北播磨	西脇市	11 (1)	○	◎	
	三木市	173 (19)	○	◎	◎
	小野市	91 (7)	○	◎	◎
	加西市	3 (0)	○	◎	○
	加東市	4 (0)	○	◎	
	多可町	3 (0)	○		
中播磨	姫路市	9 (1)	○		
	神河町	6 (2)	○	◎	
	市川町	10 (1)	○		
	福崎町	45 (10)	○		○
西播磨	相生市	4 (0)	○	○	
	たつの市	15 (1)	○	◎	◎
	赤穂市	12 (16)	○		
	宍粟市	1 (0)	○		◎
	太子町	1 (0)	○		
	上郡町	1 (2)	○		
	佐用町	0 (0)	○	◎	
淡路	洲本市	16 (1)	○	○	
	南あわじ市	8 (0)	○	◎	
	淡路市	11 (2)	○	○	
阪神北	伊丹市	1 (0)	○		
	宝塚市	3 (0)	○		
	川西市	4 (0)	○		○
	三田市	0 (2)	○	◎	
	猪名川町	3 (0)			
阪神南	尼崎市	9 (0)	○		◎
	西宮市	11 (0)	○		
	芦屋市	2 (0)	○		○
丹波	丹波篠山市	3 (0)	○	○	
	丹波市	10 (0)	○	○	○
但馬	豊岡市	3 (0)	○	◎	
	養父市	1 (0)	○		◎
	朝来市	3 (0)	○	◎	
	香美町	0 (0)	○		
	新温泉町	0 (0)			○
県外		1 (0)			
計		2,538 (346)	39 市町	18 市町	12 市町

